

「仲間からの尊敬」という報酬

チーム営業を顧客企業と一緒に作り上げてきたのはこの約10年ですが、私自身がこのチーム力を体験したのは、今から約20年前、30代前半の頃です。今でも鮮明に覚えています。「チームはすごい」と思ったのは、人財育成にかかわっていた顧客企業からプロジェクトの相談を受けた時。その案件は15名の講師と3名のスタッフを必要とする新入社員育成のプロジェクトでした。

当時は私ともう1名しか新入社員育成を担当できる講師がいなかったため、15名の講師を新規に探すことと、研修の運営経験があるスタッフ3名を探す必要がありました。発注企業側のご担当者とは長年のお付き合いであったため、その状況を承知でのことでした。「嶋谷さんの研修は社員がとにかく元気になるんですよ。ですから、そのコンセプトで教育をしたい

ので全てをお任せしたい。」と言われた時には、感極まり、必ず成功させるという決意で臨みました。

新入社員教育は4月に一斉にスタートしますので、準備は当然ながらそれまでに終えなければなりません。そのため、人員もスタッフもまだ揃ってない1月頃は、新入社員研修の会場から開始時間になっても講師が来てないという電話がかかってくる夢を見て、夜中に飛び起きたことも数回ありました。レベルの高い講師は、すでに新入社員研修の時期は昨年のお客様からリピートをもらいますからなかなかおらず、かといってマニュアルに書かれたことを教えるだけでは新入社員が現場に配属されてから一歩踏み出す程まで効果が続かない。私の求めるレベルの講師を15名揃えることは難航を極めました。特に、お客様から評判のよい講師を紹介してもらって面会に行くと、たいていは昨年のリピートで日程が埋まっています。

そこで、視点を変えて新入社員研修をすることが少ないコンサルティング会社へ相談にきました。コンサルティング会社は新入社員研修をしないところも多いのですが、企業の現場をよく歩き、企業競争に打ち勝つ戦略から戦術までを支援するバリバリのビジネスパーソンが多くいるため、影響力のある講師に育成することは短時間で可能だと考えたのです。こ

の時期は人に会ったら「影響力のある講師を紹介してください！」とお願いしていましたので、紹介の紹介の紹介という数人先からの紹介を受けた講師がほとんどでした。このうちの二人はその4年後には(株)アイマムの役員として活躍してくれることになりましたので、**お客様のための努力が結局は自分のためになる**ことも経験から学びました。なりふり構わずとにかく講師に会うことで、15名の講師と経験のあるスタッフ3名を集めることができました。これが私のチーム作りのはじまりでした。このチームによって、私がアイマムを設立する大きな動機を与えられることになります。

この研修チームのミッションは、この新入社員プロジェクトを成功させること。目標は新入社員が職場に配属されて業務が遂行できる基本知識と技術を習得し、各科目の確認テストに全員一発で合格すること。そして、高いプロフェッショナルマインドが体得できていること。顧客企業は世界を相手にする法人のシステム開発を事業としていたため、提供する内容は、プロフェッショナルとしてのマインド、マナーからマーケティング、アカウンティング、マネジメント、ITリテラシーまであり、期間も3ヶ月以上にわたっていました。そのために私は分野ごとにリーダーを決めて権限を委譲し、各講師の得意分野のカリキュラムと資料を作ってもらい、講師が得意な科目を他の講師に教えるという方針にしました。1日の研修が

終わったらクラスの進捗を毎日情報共有し、互いに与え合つということが運営ルールとして生まれました。

この新入社員プロジェクトは大成功を収め、長年にわたりピートをいただけることになりました。プロジェクト打ち上げの席で、とてつもない報酬を得ることになりました。それは「**仲間からの尊敬**」です。夜遅く、私がホテルのロビーに降りていくと、講師が集まって熱く議論しているではありませんか。別に私が頼んだわけではないのですが、18名がチームのミッションと目標を実現するため、真剣に議論する姿に衝撃を受けたのです。「すごい！どうしてそんなに頑張ってくれるの!？」と驚いてしまったのです。夜中まで熱く議論する講師達の姿は、互いに尊敬し合っているように見えました。約1ヶ月後、全日程を終了し、打ち上げの食事の後、皆でカラオケボックスに入り、なんと、解散したのは深夜3時。一曲も歌を唄うことなく、ずっとこのプロジェクトの話に終始しました。感動したことや危機をどう乗り越えたのかなど、チームを組んだ講師がいかに思いやりを持って協力し、切磋琢磨し合い成長できたのかという相手への尊敬と感謝の言葉で埋め尽くされました。プロジェクトの総監督をやっていた私に対しては、「こんなすばらしいメンバーと環境で仕事ができると本当にしあわせです」と感謝の言葉をたくさんもらいました。素直に心が震えました。仕事をしていてこ